

黒船篇

映画文学人生論

- 006) 万延元年のフットボール 大江健三郎
007) 夜明け前 島崎藤村 参考：吉村公三郎の映画
008) 翔ぶが如く 司馬遼太郎 参考：NHK大河ドラマ
014) 金色夜叉 尾崎紅葉 参考：島耕二監督の映画
015) 五重塔 幸田露伴 参考：秋葉正俊監督の映画

泰平の眠りを覚ます上喜撰

たった四杯で夜も眠られず

「あの黒船が浦賀沖に来て以来、日本人はずつと不幸せなんだぞ」と寅さんはいう。

ペリー提督のひきいる黒船が浦賀に来航したのは約百六十年前の嘉永六年（1853）だ。「泰平の眠りを覚ます上喜撰」たった四杯で読も眠られず」という落首で諷刺されたように、日本国中が大騒ぎになった。

日本人がどのように不幸になったのかを知りたいと思えば、本を読むか映画を観ればよい。参考になりそうな小説五篇を選び、その映画やドラマもDVDが入手可能なものは観た。

万延元年のフットボール 大江健三郎

夜明け前 島崎藤村

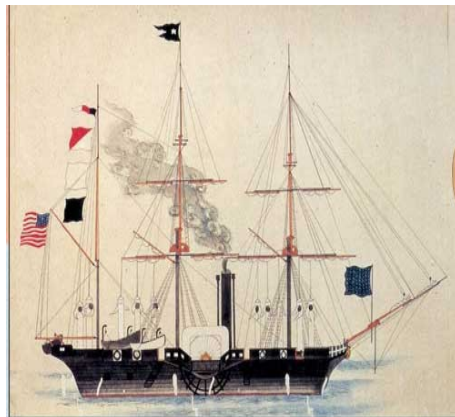
翔ぶが如く 司馬遼太郎

金色夜叉 尾崎紅葉

五重塔 幸田露伴

『万延元年のフットボール』はノーベル文学賞の受賞対象作。作者は昭和十年生れだが、曾祖父の時代の万延元年に四国の山奥で起こった一揆の言い伝えを昭和三十五年の東京を騒がせた日米安保闘争のデモと関連づけて描いている。

一揆の指導者だったのは曾祖父の弟で、安保闘争の指導者は弟の鷹四。この二人は不幸せになった代表的人物のようでもあるが、アルコール依存



黒船篇

映画文学人生論

症の妻と智慧遅れの子をかかえ、しかも妻と関係した上に、家屋敷を売り払った身勝手な弟を自殺に追い込んだのはあなたの責任だと妻から非難される兄の密三郎も不幸せな男にみえる。

もっと悲惨な目にあつて、不幸せになつたのは『夜明け前』の青山半蔵だ。平田派の国学者として倒幕、王政復古に協力したのに、明治維新政府は攘夷から一点して欧化政策をとりはじめ、国学者たちは時勢から取り残され、半蔵は座敷牢に入られて、狂死した。

『翔ぶが如く』の西郷隆盛と大久保一藏は維新の元勳として重んじられたが、西南戦争では敵になり、二人とも明治十年に死んだ。攘夷と倒幕に力を尽くし、明治維新に協力した武士たちは廃刀令で、武士の特権を奪われ、一方、農商人は国民皆兵の方針のもとに兵役の義務を負わされた。

『金色夜叉』ではダイヤモンドに目がくらみ、金持ちの銀行家と結婚したお宮と金貸しになった貫一が金のために不幸せになる。これも黒船来航の結果、地獄の沙汰も金次第の世の中になつたためともいえよう。

黒船のせいで不幸せにならなかつた日本人もいないわけではない。たとえば、義理人情よりも職人気質を優先し、『五重塔』を一人で建立して、名人の評価をかちとつたのっそり十兵衛がいる。

泰平の百人煩惱鐘霞む